

対談者

東浦町 町長

神谷 明彦 様

半田青年会議所 理事長

曾根 香奈子



これからがコミュニティづくりが大事になります。

曾根香奈子（以下曾根） 短い時間にはなりますがお願いします。

東浦町長神谷明彦様（以下町長） こちらこそお願いします。

曾根 ホームページを拜見させていただきました、「つくる・つながる・ささえあう」という取り組みの中で、まちをつくるのが住民一人ひとりで作っていくということに、すごく重点をおいているということを感じました。

今あるものの魅力にどうやって焦点を当てて、どのように発信していくのかというのを住民の皆様が考えて、色々なワークショップや若者会議などを取り入れて、どうにかまちをつくっていかうというのを、町長が発信しております。「自己実現」の場にして欲しいということに、すごく青年会議所の活動に近いものを感じます。

それでは、活力あるまちづくりとはどういうテーマで話を聞かせていただきたいです。

町長 すごく深く読んでいただきありがとうございます。

とうございます。

先程の話ですと、活力ってなんだろうとか、発展とはなんだろうとか考えた時に、今まではすごくわかり易かったのです。特に高度成長期には、人口も増えていき、経済も大きくなって、それにどっぷりと浸かっていたので、これからはその通りにはならない。だったらこれからはもう少し違った質的なこと求めていったほうが、やりがいや生きがいが出せるのではないかと、ということが根底にありました。それで、まちづくりでも経済でもそうなので、活気があつて盛り上がっている状態とはなんだろうって考えました。それは、一人ひとりやりたいことがあつて、自分の能力を発揮したという充実感が、まちのあちこちにあつて積み重なっていったものではないかと思うのですね。

曾根 色々な団体がいる中で、団体ではなく個人に焦点をあてている感じを受けましたので、そのような時にどうアクションをしたら、モチベーションを高めていかれたのかがとても気になりました。町長 とりあえず言ってみると、これも大事なことですけど、ではどうするかというところはすごく難しいですね。

僕は就任してすぐに事業仕分けを2年続けてやりました。それは無駄を無くそうというのでももちろんありますが、目的をはっきりとさせて、それに合致したことをやっていかうということなんです。そしてそれをしっかりと説明すれば、説明を受けた方も納得されるだろうというのでもあつて、事業仕分けをやりました。

その中で補助金改革というものをやりました。当時、補助団体が70個ぐらいたったのですが、それを調査してみると30年くらい変わってなく、決まったお金がだいたい入っていました。30年経



「...」
 たら活動の内容も目的も変わってきているはずですが、あいかわらず同じ団体に同じ金額を出しているという事は、何かを新たにやろうという気が湧いてこないと思います。だから、補助金改革をやりましようと言ったのです。補助金は皆さんが喜ぶから交付するわけではなく、皆さんの活動をちよつと後押しするために交付するという、誘導策なのだと思います。補助金を交付する条件としては、社会に資するための活動でないといけないのです。それも全部出すのではなく、半分以上は自分のお金で自立の方向でやりましようと言いました。」

曾根 そうですね、かなり抵抗とか反対とかあったのではないのでしょうか。
 町長 当然ありました。当時は慶弔費や飲み食いは補助金でやるということが当たり前になっていて、「それ違いますよ」と言うのは勇気が必要でしたが、実際会議でそのように言うと、皆が耳を傾けて下さって、方向性としては分かっていただけでした。
 一気にやると混乱してしまうもので、

時間をかけてこのくらいの期限で切り出すと言って実施しました。

団体によっては自立しているところもありませんし、色々ありますけど、最初はよく「会員がどんどん少なくなってくるんじゃないか、町長どうしてくれるんだ」と言われたりしました。しかし、それは僕の責任では無く、あなた達の問題で、部活と一緒に勧誘しないと新入部員は入ってこないし、勧誘するの自分達の活動のレポートも出さなかったら、誰も内容がわからないのだから、会員の減少は当たり前でしょと言いました。そしたら、ちゃんと自分たちの会報というものを作るようになって、地域で回覧するようになるなど、少しずつ変わってきています。
 曾根 成果が見られましたというのには、どのくらいの年月がかかりましたか。
 町長 そうですね、やっぱり5年位かかると思います。」

曾根 何かを変えろということとは、皆が色々言い出してくると思います。私もいま理事長を勤めさせていただけにあたり、何点か変更させて頂いた時にそのような反応がありました。お話を聞いていまして、「勇気がいる一言なのですけど」とおっしゃられましたけど、その一言で変わってきたことを実感できているということが素晴らしいと思います。
 勇気ある一言を言えば楽なのにといいうのは、今理事長をさせていただいていて実感をしています。」

町長 ありますよね、そういうことは
 曾根 はい、だからこそ勉強のために青年会議所活動をやるのですけどね。
 各団体の事業仕分けをしたということでは、大きな取り組みのひとつになったのでしょうか。
 町長 きっかけにはなりましたが、自分

思っていたので、仕分けをやると言っていました。多くの住民に公募で仕分け人や判定人として入ってもらいました。積極的な意見を言ってもらったり、感想も良かったりということもありましたので、本当はもっと長く続けたいと思っていましたけど、2年やってひと区切りをつけて終了しました。ただ、あの皆が参加したくなるようなものを、事業仕分け以外の形で継続できていたらということ、今の反省点となっています。」

その反省から、公園や図書館の活用方法を考えますという時に、みんなで行うよって言って、住民にワークショップなどに入ってもらっています。興味関心を持って出てきていたとき、勇気を持って何かを言ってくれたというのは大事なことで、まちのことをすごくよく考えてくれている人もいます。だからそういうのは活かしたいなと思います。ただそこが日常的には回っていないです。単発で実施したワークショップに来ていただき、意見を出していただきませんが、



出た意見すべてやるというわけではなく、ちゃんと議論して本当にいいものを作っていくと言っています。

ただあんまり何度もやってしまうと、ワークシヨップ疲れになってしまいますし、来る人の顔ぶれが決まってしまおうという問題がありますけどね。

曾根 その場に町長は出席されたりするのでしょうか。

町長 僕は結構行きますよ。

私が言い出したことなので、後はやっておいてねというのは無責任だと思いませんし、もう一つは、どういう人達が出てきて、どういう意見を言うのかなということに興味があります。

曾根 どれくらいの世代の方が参加されているのでしょうか。

町長 テーマによりますけど、地区でまちづくりをやりますと、その地区に住む職員さんとか、区の役員さんというのがメインになります。図書館というところが女性も多いですし、男性や建築に興味のある人とか色々います。

曾根 興味を示して来てくれた人の話を聞き、色々な視点のまちをつくっていくということに、重点を置くという形ですか。

町長 たとえば、図書館をただの貸本屋だけではなく、皆が交流する場所とか、知の拠点とかにできないかということを考えて、コンサートとかを開催しました。

普通は図書館で鳴り物や飲み食いは禁止なのですが、それを1回壊そうと思ひまして、最初は遠慮して18時に閉館して、そこからコンサートを実施しました。

そのうち図書館の開館時間の夕方とか、ロビーでやろうかとか、もしくはキッチンカーに来てもらってとかやりました。

あと、閲覧している時間帯にシンポジウムみたいなものやったり、フェスティ

バルみたいなものを考えたり、婚活をやったりしました。

曾根 図書館で婚活ですか。

町長 婚活とは名付けなくて、文学少年少女集まれという形でやりました。図書館を閉めてからですけど、ボージョリーの時期にワインを飲みながら、自分の好きな本を他の人に紹介してくださいという形でやりました。そうすると、遠慮しちゃって出来ないかなとも思いましたけど、その時来た人たちは互いに3冊くらいを、うまい具合に紹介していました。

その後のフォローが出来ていないなど、色々反省点はありました。

曾根 でも、アクシヨンとしてはすごい視点ですね。図書館で婚活というのは誰も発想しないと思います。婚活しようとする、どこかの会場を借りてパーティーを開いて、ということになると思いません。

町長 これはね、皆で考えてやった企画なので僕の発想ではないのです。サポーターズの皆さんが考えて、講師とか連れてきてくれたこともあります。

今岐阜市の図書館って有名になっていて、その活動を参考にしているところもあります。

曾根 いじりようは色々あると思うのですが、本当ですよ。玄関ロビーのところ、何かしようと思えば出来てしまいうので。

町長 まだ実現できていないのだけど、公園と一体化したいのですよ。そして、外で本を読めるようにしたい。

もっと言うと、川が流れているので、河原にも降りられるようにしたいという想いはあります。

曾根 図書館は本を借りに行くだけの場所でしたね。ですから、外で読めたりするだけでも全然違うと思います。たとえ

ばあの河原で夜に桜を見ながら読めたら最高ですよ。

町長 僕もそのように思っています。

曾根 難しいとは思いますが、夜にコーヒー飲みながら、ちよつと本が読めて景観が良ければ、人が集まると思います。

毎年於大まつりは参加させていたでいて、あの桜がすごいと感じています。ですから、もつと夜の桜に焦点をあてて、そして本が読めたら世代の違う人達が足を運ぶということになると思っています。

町長 なるほど、実は於大まつりの前夜祭というもののウエイトが、どんどん大きくなってきていますが、あれは役場がやったのではなくて、やりたい人たちが集まって自主的にやりだしたのですよ。

曾根 そうなのですか。

町長 於大まつりの時期にちよつと八重桜が咲きますから、ライトアップはやっていきますけど、何かもつとやりましようと言って、前日の竹灯籠などは有志の方



が集まっただけです。職員は火が消えないようにボランティアとして協力をしていますけど、基本的にはあれは住民が始めていて素晴らしい取組みだと感じます。

曾根 その時にコーヒー飲めたら最高ですよ。

やはり、町長の言われた自己実現の場というところで、一人ひとりがまちをつくるということに対して、段々と進んでいるところがあるが、活力あるまちづくりの大元になっているのだからという感じがします。

個人の想いを理解してもらって、違った視点からまちを作っていくというところが面白いですよ。多分、住んでいる方もそれを認識している方々は、面白いまちだなということを感じているのではないのでしょうか。

町長 そういう風に感じていただけないですよ。

曾根 自己実現の場ということがすごく心に残りました。自分たちもまちづくり団体ですので、自分がどう携わっていくのかと言うところや、まちにどうアクションしていくのか、何ができるのかという問題に直面した時というのは、自分が試されているということでもあります。そのことを意識した活動をしていかないといけないと思います。

活力あるまちづくりとはという質問と、同じような内容になるかもしれないが、今後の町の展望や、取組みとしてここに注力していきたいというものがあれば、先程おっしゃられた反省点という部分も含めて教えていただきたいです。

町長 これからはコミュニティづくりというところが大事になっていくと思います。東浦町の5万人くらいの規模なら、ちょうど顔の見えるギリギリの線かと思

っています。

昔の村の単位が今でも6つ程残っています。お互い顔が見えるようなもので、コミュニティとして色々できるよになっただけ良いと思います。私としては、もう少し自治の度合いを高めたいと考えています。お金に関しても、こちらからの指示ではなく、この予算で、自己責任で自由に使ってくださいという形に、近づけていきたいと思っています。

あとはその中でお互いに支え合いの活動というものができるようにすると、本当にお互いにやさしいまちになるのかなと思います。

必ずしもそんなに簡単なことではないと思いますが、福祉課が支え合いの観点から、色々なことを考えてやっています。たとえば福祉施設とか生活に役立つお店とかが書いてある「助さん」という冊子を出しています。行政は特定の事業者の宣伝になることはタブーだったのですが、特に高齢者向けで役立つことならいいじゃないか、ということで作りました。

あとは、お互いに助け合おうと言っています。実は助けるよりも、助けてくださいと言うことの方が本当は大変だと思っています。だから助けてくださいとい



う言葉をもっと簡単に言えるようにしていきたいです。そこでお互いに言い合えるようにしていきたいです。そこでお互いに言い合えるようにしていきましようという活動として、「ひがしうら おすそわけ隊」を結成して、地域で講演会とかワークショップをやっています。あとは、居場所を作りますよという活動も取り組んでいます。

今まであまりなかったんですけど、やってみようという人達があつまって、子ども食堂というものを立ち上げてくれました。最初は無理をせず、月に1回程度からはじまり、今では2年続いていて感心しています。こういう言い方をすると問題かもしれません、男性はよく目的はとか、意義はとか理屈こねていて、なかなか前に進まないことがあります。一方で女性はとにかくやってみようというって、面白いことに出来てしまったりします。

そこにまた男の人たちのサポートが入ると結構力強くて、子どもの相手もしてくるし、食材なんかも集まってくるのですよ。例えば家庭菜園のものを持ってくる場合もあります。名古屋北区のフードバンクに取りにいったりするわけです。そのため、割とコストを掛けずに維持しているのが、行政からは申し訳ないけど一銭も出していません。

そういうのが1年位の間5つ位できました。これは面白いなと思っています。

曾根 そうですね。実際に動いてみて出来あがったときに、男性陣からの提案で、更に力添えをしてくれるというのは感じています。

では、子ども食堂はどのくらいの方が今利用されているのですか。

町長 場所によって違いますが、小学生が対象のところだと、毎回50人とか来ていると思います。

他にも色々あって。全年齢の0才〜10才ですと謳っている所もありますし、高齢者向けというところや、やっぱりお酒飲みたいよねって言うってお酒を出すところもあります。

曾根 それは、子ども食堂を通じて、先程の6つの地区のコミュニティがだんだん密になっていっている、ということなのでしょいか。

町長 感度の高い人ですとか、問題意識を持っている人ですとか、何かやってみようという人が一定数いて、そのような方々が有志のグループとして集まって、実施しているのだと思います。ただ、物事そう簡単ではなくて、コミュニティの人材に若い人がなかなか入ってくれないという問題があって、そこは課題だと思います。

曾根 興味があるのでお聞きしたいのですが、子ども食堂でごはんを作られる方というのは、子どもたちの手が離れた年代の方が多いのですか。



町長 基本的にはそうですね、割と高齢の方がいますし、ちょうど子どもの手が離れたばかりというくらいの方もいますよ。

曾根 私の義理の母が、旦那さんを亡くして一人暮らしなので、自分の為だけではちょっとご飯を作るといことが無くなると言っています。ですから、子ども食堂のように地域の子供達や大人にご飯を作ってあげるといことが、実際は生きがいや生活リズムになっていて、生きていくことへの活性化になるとい方が、多いのかなというのを感じています。

町長 ごはんをつくるのは、食べる人のためだけではない。つくる人のためでもあるといふことですね。

言われてみると、なるほど。なかなかそういう風に言葉で聞いたのは初めてで面白いと思いました。

曾根 ありがとうございます。もともと、子ども食堂のことを聞いた時に、なぜ親が子どものために食事をつくらないのかとずっと思っていました。ですが、今話しをお聞きして、違うコミュニティが出来るという意味では、まちに対して非常にインパクトがあるのかなと思いました。自分の話になってしまいましたね。

町長 いえ、良い話を聞かせていただきました。

曾根 ありがとうございます。

続きましては、私達は、今年55年目を迎える団体ではありません。そこで青年会議所に求めるものとはどのようなことか教えていただきたいです。

町長 いろんなことを教えるということはおこがましいと思いますが、さっき言ったみたいに貴方方のような若い人たちにも、まちづくりに参加してくださいというのをずっと言っています。

お仕事があるのかもしれませんが、意

外とワークショップに出ただけなのでですね。青年会議所の皆さんも、まちづくりに関心のある一人としてワークショップに参加していただけたら、集合体としての力は増すと思うのです。

行政マンでは考えつかないような、自分なりの考え方や情報を持っていたりするので、おもしろいアイデアが入ってくると思います。だからぜひ青年会議所の方も個人としてのまちづくりというものに、もっと積極的に参加しませんかというところをお願いしたいです。

曾根 個々で持っているものって確かにありますからね。町長のおっしゃられる通り、団体としての活動とは異なり、個人でということになると、躊躇してしまふところがあるかもしれません。

町長 あとは、難しいのかもしれないけど、同世代に対して活動するというのはどうでしょうか。

実は去年三十路式というのを、町内の30才の方々が自主的に実施しました。一人呼びかける人がいて、今年は今度の週末に実施するのですが、どうなるのか楽しみにしています。

曾根 もともとはその一人の方が、三十路式をやらうと声をあげた、実施したのですか。

町長 去年は、一人の女性が代表でしたけど、その人が呼びかけて実施しました。しかしながら、次の年代では実施しようという動きは全く無かったそうです。でも、大府青年会議所さんが後押しして今年もやることになりました。

曾根 私の地元も祭りに関わる人が減ってきているので、どうにかしようということ、自分たちの学年で集まりました。

現状は成人式から、厄年の節目の間、20年間程何も集まりがないという状態ですから、その間に何かをやりたいと思

います。30代というのはやはり節目だ
と思います。

町長 同じ様に考える人が多かつたか
ら、三十路式のようなものが各地でされ
るようになりました。今は、三十路式で
検索かけると色々出てきますね。

曾根 10才の二分の一人成人式もありま
すよね。

町長 東浦は逆に65才の成人式ってや
っています。特に男性は60才の定年にな
った時に、地元につき合いが無いので
何をしたらよいか分からなくなりました。

それで、皆で一度コミュニケーション
を取ろうという流れになりました。現在
は60才だとまだ働いている方のほうが
多いので、65才に集まろうということ
になりました。

この機会に、地域のことを知って
いただいて、地域の活動の中に入って
もらうこと、4年ほど前から、地域の
活動をしている方々に、プレゼンをや
っていたいただいています。

目的意識を持ってやるのが何も無い
という状態は、人間にとって辛い状態で、
それが健康にも関わってきます。健康寿
命という言葉が出てきましたけど、その
先でよく言われているのが、社会的な健
康という言葉です。それが本当の意味で
の食べる、寝る、運動する以外の健康の
大事なひとつの要素として、社会参加と
いうことになるのですよね。

いかに社会と関わるかが健康で楽しく
長生きするコツとなっています。

曾根 社会参加って、使命を渡されてい
る時が生きがいを感じる時であるという
ことは、私も考えています。人に必要と
されている毎日から、いざここで終わり
となっていて、いきなり何も無いというこ
とはすごく寂しいですし、65才はまだ元
気ですしね。

町長 同じような意味では、家で一人で
子育てをしているお母さんもそうです。

ずつと家にいるので社会と切り離され
ていると感じている方が多いそうです。

子育てという重要な社会貢献をして
いただいていますので、僕としてはそのお
母さん達を支援して、社会に貢献してい
るといふ実感を持っていただこうと考
えていて、町議会でその提案をしている
ところです。

曾根 それはとても素晴らしい考えだと
思います。ぜひ、町として取り組んでい
たきますと、もしかしたら、子育てを
しに東浦に引っ越して来る人も増えるか
もしれませんね。

最後にありますが、賀詞交歓会に来て
いただいた時に、話をさせていただきま
したSDGsについて話をさせていただきました
きます。取り組みについては担当の間瀬
から話をさせていただきますので、交代
をさせていただきます。

間瀬理子（以下間瀬） 間瀬です。よろ
しくお願いたします。

今年から我々半田青年会議所もSDG
sに力を入れていこうということで、話
をさせていただきます。行政の方々と一
緒に取り組んで行けたらと思ひまして勉
強しておりますので、簡単に紹介をさせ
ていただきます。

まず、SDGsを勉強していく中で、
特別に何かをする必要はなくて、今まで
実施していた社業や活動にSDGsのゴ
ールを当てはめ、少しだけ意識をしながら
活動をするということで、よりその活動の質
が高くなるということを知りました。

例えば、この町の活動ではどうなるか
と言いますと、17のゴールのうちの1
番『住み続けられるまちづくりを』と
いうことが該当すると思ひます。今回訪

問させていただくにあたり、団体ヒアリ
ングや若者会議という活動をホームペ
ジで拝見させていただきました。若者会
議は29才までの若者が対象ですけど、
インターネットの普及とともに地域のコ
ミュニティというものが薄れていくなか
で、それを活性化していこうというテー
マがありました。その話し合いの時にせ
つかく集まるということ、自己紹介の
仕方を工夫されていて、積み木自己紹介
というものを実施していました。

そのような工夫の積み重ねでこのコミ
ュニティが作られていくということを感じ
ました。

そのため、11番の項目が該当すると思
ひます。

今後、行政として取り組んでいかれる
と思ひますけど、SDGsとは何かとい
うことを知るためのカードゲームがあり
ます。私も勉強会という形ではなくその
ゲームを体験して1番わかりやすいと思
ひました。

町長 今、職員研修に結構力をいれてい



まして、ある時はスーパー公務員と言われる方に来ていただいたりするなど、色々な形で実施しています。

ただ、大企業のように人事研修は充実していないので、採用した後はOJTでと言うと聞こえは良いのかもしれませんが、そのままにしてしまっている感じが強いのです。

だから、本当は入社試験の結果や研修も踏まえ、その人をずっとフォローしていかないといけないと思うのですが、そこまで手が回っていないのです。

ただ、それに近いようなことはやっていきたいと感じています。

曾根 SDGsにゴールは設定されていますが、実際はどのような行動をしたら良いかと聞かれても、正直わからないことも多いです。しかし、わからないなりに「とは」という部分をゲームで感じていただけたら、その後の取り組みに、17の項目のどれにあてはまるのかということが分かっていただけだと思います。

そして、この「とは」という部分に我々が協力できると考えています。

町長 承知しました。この件は人事とも話してみます。

間瀬 ゲームの流れや目的を1回体験した後で、2回目をやろうとした時に、意味があるのかと考えたのですが、人間性が出るからかもしれないけど、メンバーが違うとまったく流れが変わって学ぶことが変わってきました。ですから、同じゲームでも何度も体験することで見えてくるものが違ってきます。

町長 他のゲームのインストラクターの方が、まったく同じことをおっしゃっています。

曾根 同じ会場で同時にゲームをしても、結果が異なってきましたね。ゲームのやり方もどう感じるかも人それぞれですので、ぜひ活用していただければと思



います。

以上となります。

本当に楽しいお時間をいただきました。ありがとうございます。

町長 ありがとうございます。よく調べてあって引き出し方が上手いので、話がしやすかったです。

今まで日本は経済が発展してきたので、量的充足を第一に頑張ってきたというものに、ほとんど興味はなかったです。しかし、今後は質的な充実を図っていく必要があるでしょうと言っています。

まちはみすぼらしいよりも、美しいほうが良いに決まっていますし、居心地悪いよりも、良いほうがいいに決まっています。そういう事によって、我々の住んでいるまちの価値が上がって住み続けたくなるのだと思います。

これはすぐに結果が出るわけではありませんが、下手すると50年かかるかもしれません。でもそれをやったらまちと、や

神谷 明彦 様

1959年8月24日生まれ。

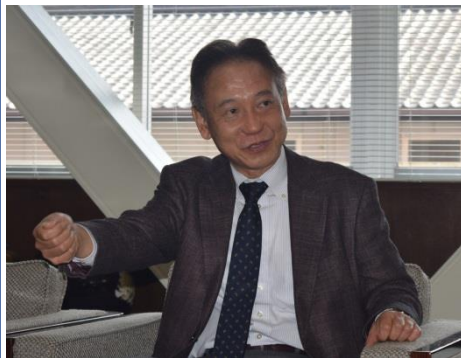
東北大学大学院理学研究科修了。

富士フィルム㈱に勤務したのち、現在は大生紡績㈱の代表取締役。

12年間東浦町議会議員を務めたの

ち、2011年より東浦町長に就任し、

現在2期目を務められています。



っていないまちとで、50年後に差が付きますということを、今一所懸命説明しています。

曾根 夜の図書館ライトアップの開放を期待しています。

町長 ありがとうございます。